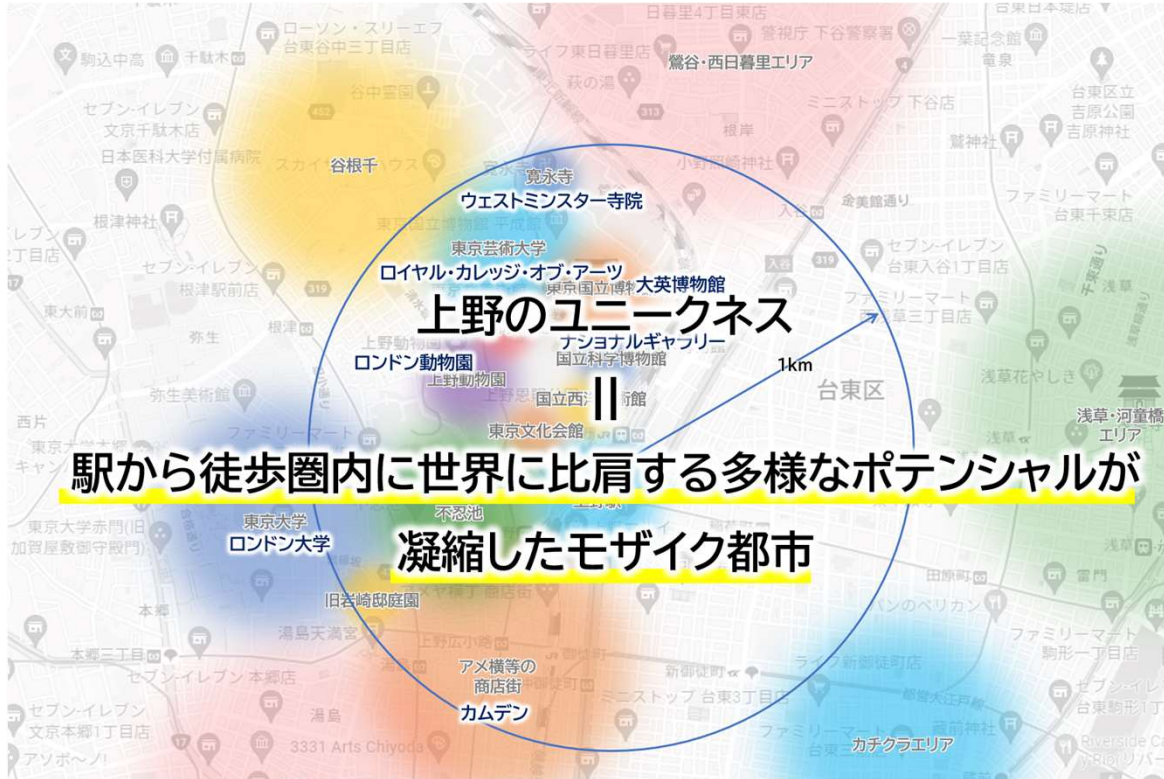


まちづくり推進部会における検討状況について

2022年度
まち部会
(第3回)

- 戦略立案の軸となる上野の強みについて議論し、「駅半径1kmに世界に比肩する多様なポテンシャルが凝縮したモザイク都市」が上野のユニークネスであることを確認
- 杜まち連携の中心となる注力すべきパブリックスペース等12か所「ターゲット10+」を抽出

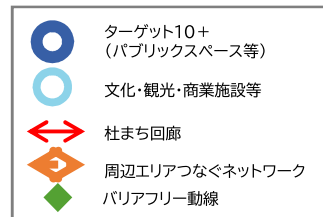
■戦略立案の軸となる上野の特徴・強み



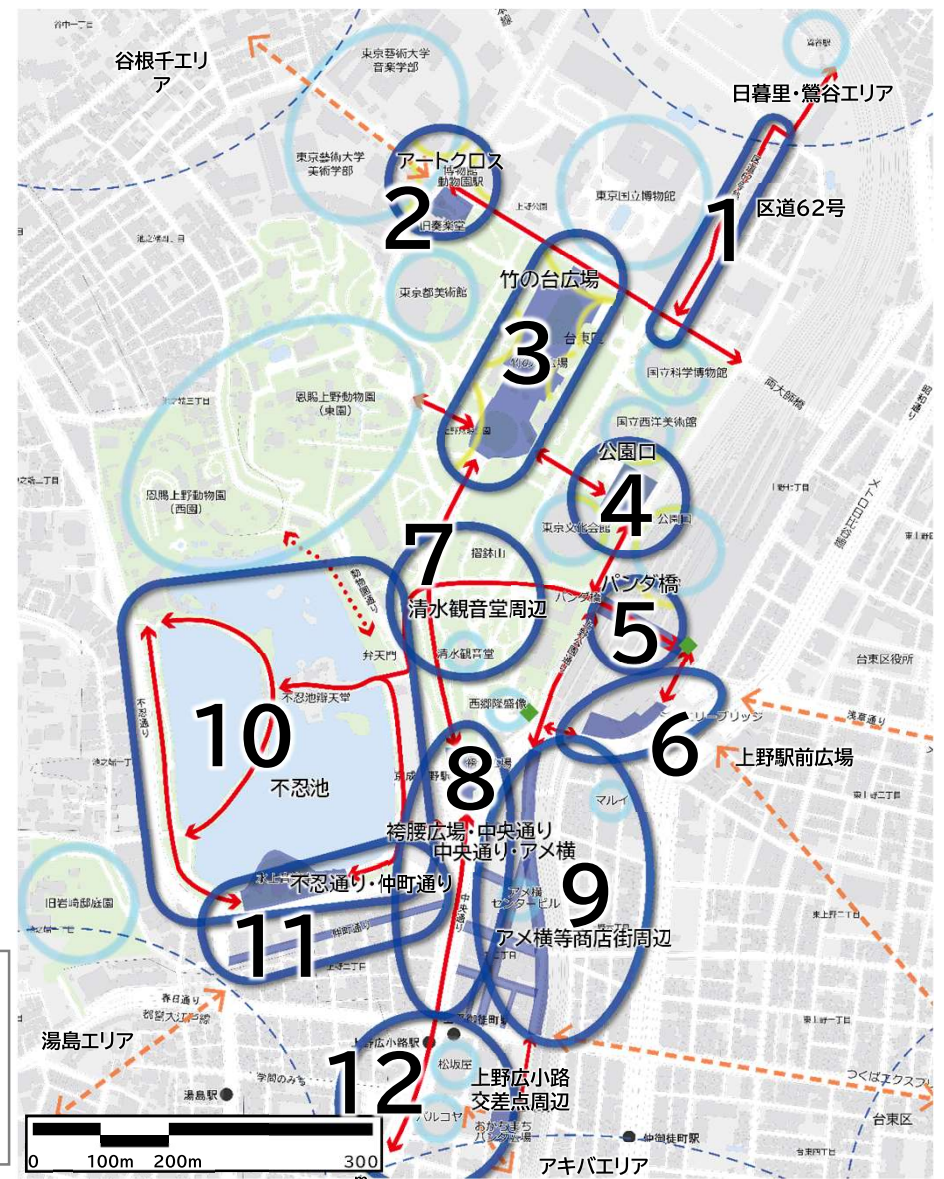
戦略(案)

杜とまちの回遊を生み出す「ターゲット10+」

- 上野駅周辺の杜・まちの回遊性向上に向けて、特に注力して魅力化すべきパブリックスペースとネットワーク等を抽出
- 各ターゲットや文化・観光・商業施設等、後背地への回遊のモデルルートとしての『杜まち回廊』を位置づけ



■注力すべきパブリックスペース等12か所「ターゲット10+」



まちづくり推進部会における検討状況について

2022年度
まち部会
(第4回)

- 上野の特徴でもあるパブリックスペースを起点としたエリアマネジメント体制を構築することを確認
- ターゲット10+を中心としながらエリアマネジメントを行う「一元的マネジメント」について来年度検討を深化化する

パブリックスペースが豊富な上野の強みを活かした新しいエリアマネジメントへ

(本部会で公共空間のあり方を検討する意義)

上野におけるパブリックスペース〔公園、道路、広場等〕

- パブリックスペースのポテンシャルを活かすことでエリアの価値を向上し、都市の競争力を高めるまちづくりが世界で志向されている
- 上野公園をはじめとした公共空間は、他地区にはない重要な資源であり、戦略的な活用が必要。

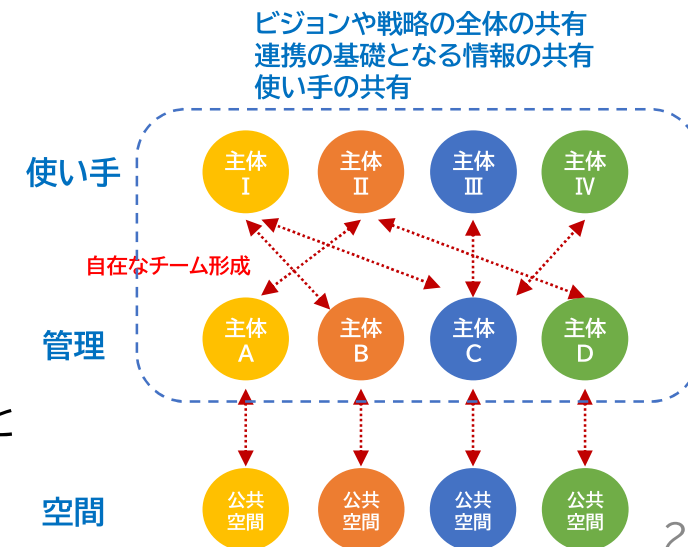
パブリックスペースを起点としたエリアマネジメントへ

- 民間不動産と同様に、公共空間を効果的に活用するには、所有・管理主体と空間の使い手を分離して考えることが不可欠で、有能な使い手を呼び込む仕組みが必要
- 資源が豊富な強みを活かすには、ターゲット10+個々の特徴を活かしつつ、全体を有効に活用する一元的なマネジメントの発想が有効

ターゲット10+

「一元的マネジメント」に向けた検討項目(案)

1. ターゲット10+それぞれで個性を明確にした空間のビジョンをもつ
2. 共通の基準やガイドラインをもつことで、12個の全てで居心地のよい水準をクリア
3. 全体として人流等のモニタリングや分析を行うことでマネジメントの改善にフィードバック
4. 場所の特徴にあわせたマネジメント体制を検討、確立し、全体で情報の共有と連携を図る
5. 空間の利活用に関する情報を一元化し、使い手がどこでも利用しやすくする



まちづくり推進部会における検討状況について

【次年度の議論テーマ】

上野駅周辺の年間イベントカレンダーを見ながら、連携可能性を考える

		春			夏			秋			冬		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ターゲット10+	1. アートクロス												
	2. 区道62号												
	3. 竹の台広場												
	4. 公園口												
	5. パンダ橋												
	6. 上野駅前広場												
	7. 清水観音堂周辺												
	8. 袴腰広場・中央通り												
	9. アメ横等商店街周辺												
	10. 不忍池周辺												
	11. 不忍通り・仲町通り												
	12. 御徒町駅周辺												
文化・観光・商業施設等	東京国立博物館												
	国立科学博物館												
	国立西洋美術館												
	東京都美術館												
	東京藝術大学												
	...												



まちづくり推進部会における検討状況について

2022年度 まち部会WG

- 上野地区におけるまちづくりの機運醸成の一環として、杜まちが連携したコンテンツを検討・実行していくことを目的に実際に杜側・まち側のプレイヤーを招集し「まちづくり推進部会ワーキンググループ」を設立

■まち部会WGの設立趣旨

- まちづくり推進部会に関連し、アイデア抽出と人材発掘のためのワークショップ等を開催する体制として、上野地区の将来を担うプレイヤー等を中心とした「ワーキンググループ」を立ち上げる。
- メンバー構成は、杜とまちよりそれぞれ複数人選出し、多様な意見交換やアイデア出しを行う。

■まち部会WGの開催概要

第1回 日時:2022年5月24日(火)
場所:東京芸術大学 赤レンガ1号館

第2回 日時:2022年8月2日(火)
場所:下町バルながおか屋yonkai

まちあるき 日時:2022年11月2日(水)
場所:ジュエリータウン、多慶屋新館等

第3回 日時:2022年12月6日(火)
場所:朝日信用金庫上野支店

第4回 2023年3月頃予定



■参加プレイヤー 一覧 (敬称略)

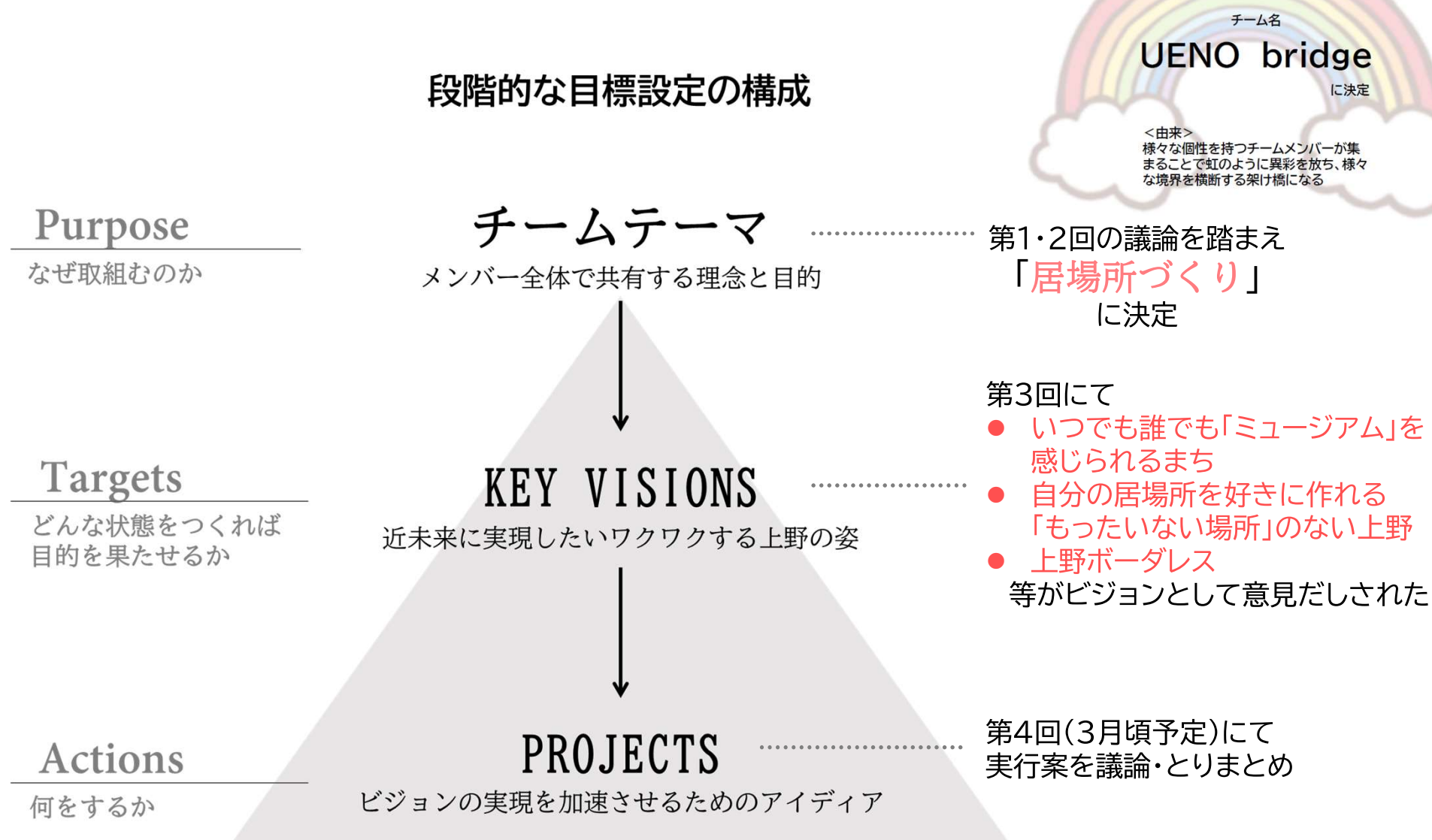
いとう たつや 伊藤 達矢	東京藝術大学社会連携センター 准教授 とびらプロジェクト
おかべ たかひろ 岡部 隆宏	上野文化の杜新構想実行委員会 事務局長
さくらい まさと 桜井 正人	上野中央通り商店会会長 御徒町駅広場周辺地区まちづくり協議会 理事 藝を育むまち同好会
たなか ゆう 田中 勇	株式会社セレナ ジュエリータウンおかちまち 藝を育むまち同好会
ま やくげん 馬 躍原	株式会社多慶屋 マーケティング部 藝を育むまち同好会
まえかわ ひろみ 前川 弘美	長岡商事株式会社 代表取締役社長 (下町バルながおか屋、シノバズブルワリーほか) 藝を育むまち同好会、しのばずいけまち研究会
まのめ さわこ 馬目 佐和子	ジュエリデザイナー Acute Accent 東京藝大卒業・修了、台東デザイナーズビレッジ
もりしげ しんご 森重 伸悟	上野ユーワンビル 五條天神社 上野 元黒門町々会青年部部長 しのばずいけまち研究会
やまざき さとし 山崎 聡	アメ横コミュニティ株式会社 代表取締役

まちづくり推進部会における検討状況について

2022年度
まち部会WG

- 杜まちが連携して取り組めるコンテンツの創出に向け、目指すべき目標となるチームテーマを「居場所づくり」に決定
- 第4回までの議論を踏まえ、WGとして実行してくアクション案を年度内とりまとめ予定

■戦略立案の軸となる上野の特徴・強み



まちづくり推進部会における主なご意見について

第3回まちづくり推進部会(令和4年7月28日開催)の主なご意見

(まちづくり推進部会の位置づけに関するご意見)

- まちづくり推進部会と基盤整備推進部会の連携の仕方が重要である。ハードからソフトを着想することもあるが、ソフトの動きがなければハードも動かない。
- 「ウォークブル推進に係る検討」は、上野のまちでも大変関心の高いテーマである。実際に起こっている萌芽的な取組みを、基盤整備の長いスパンのなかに位置づけていく視点を持って進めて欲しい。

(上野の「ユニークネス」に関するご意見)

- 上野駅は、乗降客数に対する定期券利用率が相対的に低いが、東京都内の他の駅(東京、新宿など)とのオフィス需用の集積度の差が影響している一方、観光需要の高さもあらわしていると言える。
- 上野のユニークネスのひとつに、都心のなかに広大な緑地(上野恩賜公園)と水辺(不忍池)を有していることが挙げられるのではないかと。これらの環境が人を集める大きな要素となっている。

第4回まちづくり推進部会(令和4年11月11日開催)の主なご意見

(基盤整備推進部会における検討に関するご意見)

- 社とまちの回遊性向上の施策は、上野公園を中心に語られている面もあるが、距離を考えると北から南まで一気に歩かせるのは難しい可能性があり、例えば、上野の北半分・南半分それぞれで回遊させる誘導も考えられる。
- なぜ歩かないといけないのか、いま一度整理が必要ではないか。歩かせることだけが目的ではない。

(上野エリア戦略の方向性に関するご意見)

- 今後取組む共通した基準について、「上野公園から連続する緑」を加えていくべきでは。上野公園の潤いがまちに広げられると良い。
- 「一元的マネジメント」は、まずは全体的な人々のアクティビティを把握するために、「5. 空間の利活用に関する情報を一元化し、使い手がどこでも利用しやすくする」から始めるべき。そのために上野地区の年間のイベント・活動状況を整理することが必要である。
- 人流をモニタリングすることは、現状を把握するだけでなく、取組みや施策を行った後の差分を観察する上でも有用である。また、上野のような観光地はオーバーツーリズムの状況を把握する上でも役に立つと考える。